

船舶事故調査報告書

平成28年1月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年8月8日 08時53分ごろ
発生場所	広島県呉市倉橋島南方沖 安芸俎岩灯標から真方位276°4,500m付近 (概位 北緯34°02.6′ 東経132°29.1′)
事故の概要	プレジャーボートむかあは、南東進中、また、プレジャーボート美千代丸は、釣りをしながら漂泊中、両船が衝突した。 むかあは、右舷船首部に擦過傷を生じた。
事故調査の経過	平成27年8月28日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート むかあ、0.9トン 270-47817広島、個人所有 B プレジャーボート 美千代丸、長さ2.85m なし、個人所有
乗組員等に関する情報	A 操縦者A、旧四級小型（免許証失効中） B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 右舷船首部に擦過傷 B なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	操縦者Aは、操縦席に腰を掛けて操船していたところ、操縦席の横に立てていた釣り竿が倒れたので、元に戻す作業を行いながら航行を続けた。 船長Bは、左舷方から接近するA船を視認したが、A船に人影が見えていたので、A船が漂泊中のB船をいずれ避航するものと思い、右舷方を向いて釣りを続けた。
分析	A船は、操縦者Aが、倒れた釣り竿を元に戻す作業をしていて前方の見張りを行っていなかったことから、B船に気付かなかったものと考えられる。 B船は、船長Bが、A船が漂泊中のB船をいずれ避けるものと思い、右舷方を向いて釣りをしていた周囲の見張りを適切に行っていなかったことから、A船がB船を避けずに接近していることに気付かなかったものと考えられる。
原因	本事故は、A船の操縦者Aが前方の見張りを行っておらず、また、

	B 船の船長 B が周囲の見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時適切な見張りを行うこと。 ・ 漂泊中、接近する他船を認めた場合、その動向に注意して、避航の様子が見られないときは、時間的にも距離的にも余裕がある時機に、機関を使用して移動するなど、衝突を避けるための措置を適切に講じること。